

4) 耐病虫性等

ネコブセンチュウ抵抗性は“強”、ミナミネグサレセンチュウ抵抗性は“中”である。黒斑病抵抗性は“やや弱”である。貯蔵性は「ベニハヤト」よりやや劣る“やや難”である。

4. 適地および栽培上の注意

南九州のかんしょ作地帯に適する。栽培に当たっては以下の点に留意する必要がある。

- ① マルチ栽培ではいもが長く、かつ曲がりやすいので、掘取を丁寧に行う。
- ② 貯蔵性が「やや難」であるので、いもの貯蔵温度に留意する。
- ③ 黒斑病抵抗性が「やや弱」であるので、

同病害の多発地帯では防除に努める。

5. おわりに

太陽の光り輝く南九州に適する、β-カロテンを豊富に含む、赤い皮色の品種であることから「サニーレッド」と命名された。「サニーレッド」から作られたパウダー、焼酎などの需要が拡大し、南九州のかんしょ作に貢献できることを育成者一同期待しているところである。最後に「サニーレッド」の育成にご援助、ご協力をいただいた関係者各位に感謝の意を表する。

「サニーレッド」育成者 山川 理、吉永 優、
日高 操、熊谷 亨、久木村 久、小巻克巳、
石黒浩二、梅村芳樹、宮崎 司

飢餓克服のための馬鈴しょ増産

馬鈴しょは北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）ではイネ、トウモロコシに次ぐ第3の作物で、毎年約20万ヘクタールに作付されている。主要産地では改良品種が栽培されてはいるものの、ここ10年以上更新されておらず、そのためウイルス病・疫病による被害が大きく、またトウモロコシ・野菜などと輪作されるが、植付けられる畑は痩せ、肥料が十分に与えられないので、単位収量はヘクタールあたり7トンと非常に低い。1990年以降その生産は100万トンも減少していて、最近4年間ではエルニーニョ現象がもたらす干ばつ、水害などで2/3もの生産物が失われている。

北朝鮮の食糧危機はすでに世界周知の事実であるが、馬鈴しょを増産して長期にわたる非常事態を克服しようとする熱望をもって、同国はその顔を国際研究機関の援助を仰ぐ方に向けてきている。真正種子（TPS）を用いる生産方式が検討され、国際馬鈴しょ研究所（CIP）からは早速1kgのTPSが寄贈され、また、首都平壤にある農業生物研究所の職員がこの技術利用についての研修を受けている。供給されたTPSによる種いもは、すでに同国の主要馬鈴しょ

生産地の3ヵ所に配付され、地域協同組合が作付している。

CIPのほか、非政府の援助団体（NGO）、米国国際開発機関（USAID）の海外災害援助事務局、国際馬鈴しょ生産（PPI）、米国カリフォルニア州の私企業、ベトナム・中国の国立機関などからも支援の手がさしのべられている。

国際研究機関では、北朝鮮と似た条件の近隣国での実績をもとにして、普通の種馬鈴しょを用いる生産方式の改善にも貢献しているが、CIPと中国科学アカデミーの協力により、すでに中国で10万ヘクタール以上の作付をもつ改良品種を北朝鮮に導入しよう、との計画はその一例である。

北朝鮮では、いままでコメとトウモロコシだけが主食として重用されてきたが、これを契機として馬鈴しょへの認識が高まり、深刻な危機解消へ向けての一層の自助努力がはかられるようになるかもしれない。（秋元喜弘）

